

大森正仁教授略歴

- 一九五五年 山梨に生まれる
- 一九七八年 慶應義塾大学法学部法律学科卒業
- 一九八〇年 慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程修了
- 一九八三年 慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学、法学博士（二〇〇二年）
- 一九八四年 武蔵工業大学講師（～一九八七年）
- 一九八五年 外務省経済局海洋課嘱託（～一九八七年）
- 一九八七年 慶應義塾大学法学部専任講師（～一九九一年）
- 一九九一年 慶應義塾大学法学部助教（～一九九六年）
- 一九九一年 英国ケンブリッジ大学国際法研究所訪問研究員（～一九九三年）
- 一九九三年 慶應義塾大学通信教育学生部長（～一九九五年）
- 一九九五年 慶應義塾大学国際センター学習指導主任（～一九九七年）
- 一九九六年 慶應義塾大学法学部教授
- 二〇〇〇年 オランダ・ロッテルダム大学及びフランス・パリ政治学院訪問教授（～二〇〇一年）
- 二〇〇一年 慶應義塾大学通信教育部長（～二〇〇五年）
- 二〇〇七年 慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部長（～二〇一一年）

二〇一五年 慶應義塾横浜初等部長 (一〇一七年)
二〇一七年 慶應義塾常任理事

〈委員〉

二〇〇〇年 国際法学会評議員、理事 (一〇一六年)
二〇〇一年 国連大学グローバルセミナー湘南セッションプログラム委員 (一〇一七年)
二〇〇二年 世界法学会理事
二〇一〇年 防衛省自衛隊員倫理審査会 (一〇一四年より会長、一〇二〇年)

大森正仁教授主要業績

単行本

- 『国際責任の履行における賠償の研究』（慶應義塾大学法学研究会叢書、慶應義塾大学出版会、二〇一八年）
- 『日本の国際法事例研究（六） 戦後賠償』（ミネルヴァ書房、共著、二〇一六年）
- 『よくわかる国際法』（ミネルヴァ書房、編著、第二版（二〇一四年）、初版（二〇〇八年））
- 『国際法Ⅱ』（慶應義塾大学出版会、二〇一〇年、初版（一九九九年））
- 『日本の国際法事例研究（五） 条約法』（慶應義塾大学出版会、共著、二〇〇一年）
- 『日本の国際法事例研究（四） 外交・領事関係』（慶應義塾大学出版会、共著、一九九六年）
- 『解説宇宙法資料集』（慶應義塾大学出版会、共著、一九九五年）
- 『日本の国際法事例研究（三） 領土』（慶應通信、共著、一九九〇年）
- 『日本の国際法事例研究（二） 国交再開・政府承認』（慶應通信、共著、一九八八年）

論文

「国際責任法の発展に関する一考察―2000年～2018年―」 芹田健太郎他編『実証の国際法学の継承（安藤仁

「介先生追悼」(信山社、二〇一九年)

「海洋空間における国際責任論の展開」『法学研究』七五卷二号(二〇〇二年)

「国際法における空間区分と責任法理論に関する一考察」国際法学会編『日本と国際法の一〇〇年 第二卷 陸・空・宇宙』(三省堂、二〇〇一年)

「国際責任法理論と戦争法・武力紛争法―デイオニシオ・アンチロッチの貢献―」『世界法年報』二〇号(二〇〇一年)

「外国人の取扱」『法学研究』七〇卷六号(一九九七年)

「国際法における懲罰的損害賠償の意味」『法学研究』六七卷六号(一九九四年)

「板倉卓造の国際法観(明治期)」『近代日本研究』八号(一九九一年)

「国際機構の国際責任―宇宙損害責任条約における意義―」『法学研究』六四卷五号(一九九一年)

「法の一般原則と国際責任に関する一考察」『慶應義塾大学法学部法律学科開設百年記念論文集 法律学科篇』(一九九〇年)

「宇宙法における国家責任の法理」『空法』二九号(一九八八年)

「国家の国際犯罪と国際責任」『法学研究』五九卷三号(一九八六年)

「国家の国際責任の法典化について」『慶應義塾大学大学院法学研究科論文集』一七号(一九八三年)

翻訳

アンジェロ・ピエロ・セレーニ「イタリアにおける国際法の歩み」(一)『法学研究』七〇卷一一号(一九九七年)、

(二) 七一巻三号(一九九八年)(森征一教授と監訳)

E・R・C・vanボガート『国際宇宙法』(信山社、共訳、一九九三年)

ゲオルグ・レス「国際法における保証及び保証条約についての諸問題」『法学研究』五八巻一〇号（一九八五年）

書評

Jan Willisch, *State Responsibility for Technological Damage in International Law* (1987) 『法学研究』六二巻二号（一九八九年）

その他

位田隆一・最上敏樹編『コンサイス条約集』（三省堂、第二版、二〇一五年）

中村洸編、大森正仁補訂『前原光雄 国際法論集』（慶應義塾大学法学研究会叢書、慶應義塾大学出版会、二〇一一年）

杉原高嶺編『コンサイス条約集』（三省堂、二〇〇九年）

杉原高嶺編『解説条約集』（三省堂、二〇〇九年）

国際法学会編『国際関係法辞典』（事項担当）（三省堂、第二版、二〇〇五年）

国際法学会編『国際関係法辞典』（事項担当）（三省堂、一九九五年）

「栗林忠男名誉教授逝く」『三田評論』一二三三二号（二〇一九年）

「学生を想う」『法学研究』九二巻九号（二〇一九年）（栗林忠男先生追悼記事）

「慶應義塾の一貫教育」『塾』三〇一号（二〇一九年）

「『法学政治学論究』一〇〇号記念座談会 回顧から創造へ」『法学政治学論究』一〇五号（二〇一五年）

- 「国境を越える人、物、情報の移動と国際法」『三色旗』七九八号(二〇一五年)
- 「日韓国際法学会共同会議 北東アジアにおける国際法の現代的諸問題」『国際法外交雑誌』一一一卷三号(二〇二一年)
- 「帰属(一) — 在テヘラン米国大使館人質事件 —」小寺彰他編『国際法判例百選』(有斐閣、第二版、二〇一一年)
- 「国際法の理論と実務 — 国内法の域外適用および人権保障 —」『自由と正義』六一巻五号(二〇一〇年)
- 「国際法の八月」『三色旗』七三七号(二〇〇九年)
- 「中村泷先生から頂いたパンフレットの想い出」『法学研究』八〇巻一〇号(二〇〇七年)(中村泷先生追悼記事)
- 「板倉卓造先生」「栗林忠男先生」「私の研究紹介」「国際法(中村泷教授と共著)」「三田法学の未来を語る」慶應義塾大学法学部編『語り継ぐ三田法学の伝統』(慶應義塾大学出版会、二〇〇六年)
- 「進路を決めた一冊」『三色旗』六七五号(二〇〇四年)
- 「個人被害者の請求権処理方式 — エスファハニアン事件 —」山本草二他編『国際法判例百選』(有斐閣、二〇〇一年)
- 「国際法Ⅱを学ぶ諸君に」『三色旗』六二二号(二〇〇〇年)
- 「英国」における法律学」『三色旗』五七一号(一九九五年)
- 「秘蔵(80) フーゴー・グロティウス『自由海論』」「三田評論」九六二号(一九九四年)